

基本目標Ⅱ

生業づくり





Ⅱ-1

農の可能性に自信のもてるまち

Ⅱ-2

農・食の掛け算で魅力を生むまち

Ⅱ-3

森林の循環を生業とするまち

Ⅱ-4

今と未来をつなぎ稼ぐ力をつけるまち

II-1 農の可能性に自信もてるまち

【課題・基本方針】

内子町の基幹産業の一つが農業です。寒暖差のある地形は果樹栽培に適しており、カキ、ブドウ、モモ、ナシ、クリなどの栽培が盛んで、兼業も含めると非常に多くの人が農業に従事しています。果樹の中には高価格で取引される品種等もあり、個人での販売はもとより集客力のある直売所や農協、EC サイトなど多様な売り方を展開できる環境にあります。また環境保全型農業を長年推進し、トレーサビリティや土壌診断の導入による土づくりや減農薬認証制度の確立など、安心・安全な食の提供を実現してきました。近年では町独自の新規就農者研修滞在施設や、親元就農支援事業などにより、新たな担い手確保につながっています。

このように多様な先進的取組を推進していますが、人口減少や高齢化による後継者不足、耕作放棄地の増加、資材の高騰による経営の圧迫、有害鳥獣による被害拡大、近年では高収益作物の競争力の低下など、課題は年々厳しさを増しています。

今後も引き続き、持続可能な農業経営支援や就農支援による担い手確保、事業承継につながるマッチングの体制整備などを進めるとともに、収益力向上の見込める品種の周知を図ります。併せてほかの産地との差別化を図るプロモーション展開など、内子町の農業の可能性や魅力を発信していきます。



遊休農地活用に取り組む若手の
農業者仲間たち

【主な取組】

(1) 農業経営支援と新たな農業へのチャレンジ

- 機械化や農地集積等による省力化と生産性向上を推進します。
- 高収益が見込める品種の周知を図ります。
- 効果的な有害鳥獣対策を研究・普及します。
- 化学肥料削減に取り組む農家への支援として有機転換についての支援を行うなど、環境負荷を減らした持続可能な農業を推進します。
- 守るべき農地を明確化し、担い手への農地集積が円滑に行えるよう「地域計画」を作成します。

関連事業：農機具等への補助／有害鳥獣農林地等侵入防止施設への補助／環境に配慮した農業支援／住民主体の農村機能維持 ほか

(2) 担い手確保・就農支援

- 新規就農者の確保や親元就農への支援を継続します。
- 就農研修制度の充実を図ります。
- 認定農業者及び認定新規農業者の確保に取り組みます。

関連事業：就農支援の継続／就農研修制度の充実／認定（新規）農業者制度の活用 ほか

(3) 産地プロモーションの推進

- 都市部への特産品 PR 活動と取引先確保を継続します。
- 産地の差別化を図る新 PR 活動として、SNS などを利用した攻めの PUSH 型から、口コミなどから広がる待ちの PULL 型まで幅広く推進します。

関連事業：PR 活動と取引先の確保／新 PR 活動の検討 ほか



人気の高い青系ブドウ



主要産品の富有柿

【重要業績評価指標】

指標の名称	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和11年度)
地域計画策定数(累計)	0	11
認定農業者数(単年度)	169	169
認定新規農業者数(累計)	20	25
大都市圏でのPR活動(単年度)	2回	3回

【SDGs 17の目標との関係性】

目標	考え方	目標	考え方
	自立に向けての新規就農支援の充実		環境にやさしくまた気候変動に対応した農業の推進
	農業振興による食物の安定供給促進や環境型保全型農業の推進		バランスの取れた生産と消費の促進
	水質・土壌汚染等の害を受けない健全な農業の推進		農地の適切な保全による気候変動の影響の抑制
	資機材への再生可能エネルギー活用の促進		生態系や生物多様性を損なわない取組の推進
	所得向上も含めた働きがいのある農業の推進		SDGsを意識した取組の推進

II-2 農・食の掛け算で魅力を生むまち

【課題・基本方針】

内子町内には「内子フレッシュパークからり」（以下「からり」という。）と「小田の郷せせらぎ」（以下「せせらぎ」という。）の2つの道の駅があります。

からりでは、新鮮で安心・安全な内子町産の商品を提供するため、生産者による生産履歴の開示（トレーサビリティ）を実施しています。また、化学肥料や化学合成農薬を一定割合以上削減して栽培した農産物を認証する、「エコ内子認定制度」を導入しています。こういった取組は平成27（2015）年国土交通省の「全国モデル道の駅」に選定されるなど各所での評価を得ています。また町産品を使ったハム・ソーセージやシャーベットなどの加工品も豊富で、多くの人が集まる場所となっています。今後は、姉妹町村提携盟約を結んでいる沖縄県宜野座村とのコラボ商品などの開発も検討されています。

せせらぎでは、農産物や山菜などに加え、町内の木材を利用した木工品や地元事業者の地域色あるスイーツなどの加工品を中心にユニークな商品が販売されています。またせせらぎ内にある「かじか亭」は、地元名物「たらいうどん」をはじめとする素朴な小田の味を堪能でき、接客も好評であることから売り上げは右肩上がりの状況です。

しかし、両者とも農家の高齢化や他地域の出荷先の増加等により、出荷者の減少が課題として挙げられます。農業が基幹産業である内子町にとって、道の駅は農産物や食、文化の発信拠点となる重要な場です。今後も農家の担い手育成・確保を図るとともに、道の駅としてさらなる商品の魅力向上や新商品の開発等に取り組むことで集客につなげます。また子育て世帯や外国人などの利用しやすさの向上、防災機能の整備、さらには地域をつなぐハブ的役割の充実などを進めていきます。



内子フレッシュパークからり
パン工房が改修され、より充実

【主な取組】

(1)さらなる魅力ある商品の充実

- 内子町の農産物などを通じた魅力発信拠点として、出荷者の確保と内子らしい商品の充実に取り組めます。
- 内子を代表する土産物（特産品）の開発を後押しし、ブランド化を図ります。
- 宜野座村との交流事業など、食をはじめとする文化や技術の交換を行い、双方の文化及び技術の伝承と相乗効果を高めます。
- せせらぎは、産業の振興、賑わいの創出、地域に暮らす人々の生活支援など、持続的発展を担える地域づくりの拠点施設として、第3期整備基本構想・基本計画に沿った整備を具現化します。

関連事業：出荷者の確保／特産品開発及びブランド化の推進／宜野座村との産品交流の促進 ほか

(2)道の駅の機能強化

- 子育て世帯や外国人訪日客も利用しやすいよう施設の機能を見直し、誰もが使いやすい道の駅を目指します。
- 道の駅自体の防災力の向上、再生可能エネルギーの導入を図ることで、より強靱な道の駅づくりを進めます。
- 地域の中心部に位置する立地を生かし、地域の憩いの場であり、かつ、地域をつなぐハブ的役割を担うための仕組みづくりを進めます。

関連事業：子育て世帯にやさしい環境づくり／再生可能エネルギー導入の検討 ほか



小田の郷せせらぎ
かじか亭のたらいうどんも人気

【重要業績評価指標】

指標の名称	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和11年度)
せせらぎの新商品開発（累計）	1	2
じゃばら商品の開発（累計）	6種類	10種類
宜野座村との産品交流の実施（単年度）	2回	2回
子育て世帯にやさしい環境づくり	1カ所	5カ所
再生可能エネルギーの導入	0カ所	3カ所

【SDGs 17の目標との関係性】

目標	考え方	目標	考え方
	農産物の販売機会・環境の充実		災害に強い施設整備やICT等活用の促進
	農業振興による食物の安定供給促進や環境型保全型農業の推進		環境にやさしくまた気候変動に対応した農業の推進
	水質・土壌汚染等の害を受けない健全な農業の推進		バランスの取れた生産と消費の促進
	施設等への再生可能エネルギー活用の促進		あらゆる人が利用しやすい環境整備の促進
	所得向上も含めた働きがいのある農業の推進		SDGsを意識した取組の推進

II-3 森林の循環を生業とするまち

【課題・基本方針】

内子町の山間部ではかつて林業が盛んであり多くの人が林業に携わっていました。森林の多くが伐採適齢期を迎え、今でも熟練の林家が活躍しています。またシイタケに代表される特用林産物の生産も盛んで、地域の特産品として親しまれてきました。しかし現在では社会の変化に伴い従事者の高齢化や減少が進んでいます。併せて放置山林の増加が進行し、森林の持つ水源かん養や土砂流出防止機能の停滞を引き起こしています。

そのような中、近年では民間事業者による森林資源を活用したバイオマス発電が開始されるなど、森林整備が活発になっています。この循環の強みは、山の循環だけでなく、エネルギーの循環、人の循環など様々な好循環を生んでいます。この好循環を生かし、林業事業者への就業支援をはじめとする担い手の確保、機械化や ICT によるスマート化などの経営体制づくり、森林×教育、森林×エネルギー、森林×観光、また、有害鳥獣対策など、森林が持つ可能性を生かしながら、様々な循環による持続可能な林業を目指します。



◀ 機械の導入により効率化を促進

森林資源である木質ペレットを ▶
活用したバイオマス発電も進む



【主な取組】

(1)山の循環の促進

- 幹線林道だけではなく、支線や作業道などの基盤整備を推進することにより、施業の効率化を目指します。
- 本町に多い急傾斜地における木材の搬出において、林業事業者と協力しつつ、効果的な方法を検討していきます。
- 森林経営管理事業に取り組み、手入れが行き届いていない山林の活性化を図ります。
- 森林資源の循環促進するため、民間事業者との連携を図ります。
- 林業の省力化等を図るため、ICT化や機械化の導入に向けた勉強会の開催や導入補助の検討などを進めます。

関連事業：町産材利用木造住宅への補助／自伐林家支援事業／環境林整備事業／放置山林の活用／木材搬出方法の検討
／ICT化・機械化に向けた検討 ほか

(2)担い手の育成・確保

- インターンなど、林業就業者の育成・確保のための仕組みについて検討します。
- 子どもの森林へ興味・関心を高めるため、教育機関と連携し、森林に関する教育を推進します。
- 森林、林業の魅力や可能性を発信し、関心を高めるためのイベント等を開催します。

関連事業：担い手確保の仕組みづくり／森林教育による担い手の確保／森林教育の推進／イベントの開催・協力 ほか

(3)有害鳥獣対策の推進

- 伐採後の植林等において支障となるノウサギやニホンジカなどの有害鳥獣について、被害の状況を把握し、有効な対策を図ります。
- 被害対策として侵入防止施設の整備を推進します。
- 有害鳥獣捕獲従事者の確保を図ります。

関連事業：有害鳥獣対策の検討／有害鳥獣捕獲従事者の確保 ほか

【重要業績評価指標】

指標の名称	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和11年度)
町産材利用木造住宅への補助（単年度）	11件	15件
造林（植栽・下刈）等による森づくり（単年度）	56.4ha	60.0ha
森林教育関連事業（林ターン等）の実施（単年度）	1件	2件
森林・林業啓発活動（ワンフォレ等）への協力（単年度）	2件	3件
有害鳥獣侵入防止施設整備事業延長（単年度）	30,686m	40,000m
有害鳥獣捕獲従事者数（単年度）	182人	180人

【SDGs 17の目標との関係性】

目標	考え方	目標	考え方
 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	森林資源による再生可能エネルギーの活用の支援	 15 陸の豊かさも 守ろう	生態系や生物多様性を損なわない取組の推進
 9 産業と技術革新の 基盤をつくろう	作業道等の整備及びICTの活用による効率化等の促進	 17 パートナリシップで 目標を達成しよう	SDGsを意識した取組の推進
 13 気候変動に 具体的な対策を	森林の適切な保全による気候変動の影響の抑制		



若い世代が学ぶ林業版インターンシップ「林ターン」



人気の林業学習型イベント「ワンツーツリーフォレスト」

II-4 今と未来をつなぎ稼ぐ力をつけるまち

【課題・基本方針】

内子町において商工業を営む事業者等のすべてが中小企業及び小規模企業となっており、専門技術や特色ある商品を強みに事業展開を図っています。しかし、近年では、人手不足に加え経営者や従業員の高齢化が深刻となっており、事業継続の問題が発生しています。また若者の地元での就業という点では町内企業の魅力等の認知不足、新たな企業誘致の必要性などが挙げられます。販売力については人口減少に伴う消費力の低下が懸念され国外を含む広域的な商圈を視野に入れることが求められます。商店街においては店舗の老朽化や空き店舗、観光客の通過型観光などの課題もいわれています。一方で、老舗企業が多いことや観光客等の来訪者をはじめとする関係人口・交流人口が多いことは強みでもあります。

そのような中、創業・起業の促進や空き店舗等の解消など、商工業の維持・強化、活性化に向けた支援事業や、高校生などに町内企業の魅力を伝える企業ガイドブックの作成など、若年層の就業・定住促進を図る取組などを実施してきました。また、令和6（2024）年4月には、中小企業や小規模企業の成長発展と事業の持続的発展を図るため、「内子町中小企業・小規模企業振興基本条例」を制定しました。条例の制定により、内子町商工会や関係機関等との連携が強化され、よりの確かつ効果的な振興施策に取り組むことができます。

今後も、雇用機会の創出を後押しする施策や創業・起業支援の充実、空き店舗の利活用促進、事業者と後継者候補のマッチング強化、また、若者への町内企業の魅力発信や新たな就業の場の確保、企業誘致等に取り組み、今と未来をつなぐ担い手確保に取り組みます。そして消費者の満足度を高め、購買行動につながるサイクルを円滑に回し、消費者の SNS 発信による新たな顧客創出、内子のファンなどリピーターの増加、ネット注文やふるさと納税などのセカンドチャンスの増加につなげ、全国や海外で戦える、稼ぐ力を持った内町を目指します。



町内には高い技術を持つ企業も多い



イベントなど多くの人で賑わう商店街

【主な取組】

(1)雇用機会の創出を後押しする取組

- 町内企業に就職する新卒者を増やすため、奨励金等を活用して定住の促進を図ります。
- 町内企業の経営基盤の安定と強化を進め、雇用の安定を図るとともに、売上増や人材確保といった事業継続に貢献できるよう、新事業や新分野への展開といった事業再構築への支援を行います。
- 地元の学生が、町外に就職や転出する流れを変えるため、合同企業説明会を継続的に実施するとともに、町内企業を知る機会の充実・強化を図り、地域への人材還流促進に取り組みます。

関連事業：町内企業の雇用促進／若者の就職を歓迎する体制づくり ほか

(2)今と未来をつなげるマッチング支援

- 継がせたいと思う企業を見える化するとともに、承継までに至るプロセスの確立を図り、継がせたい企業と後継者候補とのマッチング率を向上させます。
- これから創業・起業をしたいと考える人材同士の横のつながりを構築し、業種を問わず様々な経営者とのつながりを持たし、コラボ商品（新商品）の開発を促すなど、起業意欲のある人材の発掘と教育に取り組みます。
- デジタル技術を活用した業務効率化や生産性向上など DX 推進に向けた支援や人材育成、事業承継などの経営課題の解決に向けた取組を支援します。

関連事業：事業承継支援／創業・起業希望者の支援 ほか

(3)町内企業の魅力発信と稼ぐ力の向上

- 企業紹介パンフレットの作成、SNS 媒体での情報発信等、若者に町内企業の魅力をより目のつく方法で発信し町内企業の認知度向上を図ります。
- 顧客ターゲットを町内、県内だけでなく EC を活用して県外や海外へ視点を広げるため、EC 事業に対するセミナー開催等の支援を強化します。
- 町産品を明確化し、認知度向上に向けた情報発信と販路拡大の支援に取り組むとともに、魅力ある新たな産品の創出やブランド力の向上、生産性の向上等に向けた取組を支援し、販売促進に取り組みます。
- 産業振興のために産業用地開発も視野に入れながら支援制度の充実を図り、町内企業と競合しない企業の誘致・進出を促します。

関連事業：町内企業の周知／EC 事業への支援／企業誘致条例の改正 ほか

(4)商い（飽きない）町

- 既存店舗などに対する店舗改装、通信環境の整備、新商品の開発等の支援を検討します。
- 事業を継続するために必要な資金の調達を促進し、経営の安定を図ります。
- 空き店舗等の情報収集に努め、創業を後押しします。
- 滞在型観光を視野に入れた商品開発や電子決済や EC 販売などの ICT 活用等の促進を図ります。
- 地域の特色を生かした魅力ある個店の創出等を促進し、新たな観光需要などの域外需要の取り込みを図ります。

関連事業：既存店舗への支援／空き店舗の利活用 ほか

【重要業績評価指標】

指標の名称	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和11年度)
創業支援による創業者数（累計）	3人	12人
就職奨励金の受給者数（累計）	0人	10人
事業承継マッチング支援による実施件数（累計）	0件	5件
創業塾セミナー受講者数（累計）	6人	30人
町内企業の業況調査数（単年度）	36回	50回
既存店舗のリニューアル件数（累計）	0件	10件
空き店舗等の活用件数（累計）	4件	15件

【SDGs 17の目標との関係性】

目標	考え方	目標	考え方
 8 働きがいも 経済成長も	ワーク・ライフ・バランスの強化	 12 つくる責任 つかう責任	環境にやさしく安全安心な新商品の開発
 9 産業と技術革新の 基盤をつくろう	新規事業や事業承継のために必要な資金や技術の支援	 17 パートナリープで 目標を達成しよう	SDGs を意識した取組の推進
 11 住み続けられる まちづくりを	空き店舗の活用促進と事業承継の推進		